

評価領域	教育課程
------	------

重点目標	児童生徒が社会に参加するための教育活動の推進
------	------------------------

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然環境と開校当初から続く地域との関わり、地域資源の活用に加え、新校舎の機能を活かした教育課程を編成・実施している。 ・コロナ禍ではあるが、これまで行われてきた地域に展開する学習活動のノウハウを生かし、新しい取組も含めた活動に積極的に取り組んでいる。 ・外部専門家の指導の下、中学部・高等部の作業学習製品の開発・製造に取り組み「本物の力」を育てている。
-----	---

具体的な目標	伝統ある教育活動と新校舎の機能を活かした「チャレンジ」と「エンジョイ」のある教育活動の創造・実施
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 アフターコロナを見据え、これまで中止されてきた地域との共催行事や地域資源を活用した学習を、感染症予防対策を講じながら、新しい形で復活させていく。 2 「新しい学校の生活様式」に配慮しながら、児童生徒の発達の段階や特性に合わせた「地域に感謝される」学習活動を計画・実施していく。 3 地域に展開する学習を通して実践していく今年度の取組を、公開研究会で公開する。 4 外部講師の指導や地元事業所と連携し、学校特産品の開発、製作、販売を行う。
------------	---

具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度まで開催を見合わせていた「達子森の夏祭り」は、学校後援会を中心とした地域の方々の協力をいただきながら、感染症対策を万全にして実施することができた。また、本場大館きりたんぼ祭りや比内とりの市についても、生徒の学習の成果を発表する場として参加が実現した。 2 大館市の生涯学習課や林政課、大館市商工会議所などの協力を得て、地域のSDGsの取組や「木育活動」、「ハチ公100年プロジェクト」など地域に展開する学習を実施することができた。各学部の取組は12月の公開研究会で公開・報告した。 3 高等部の食品加工班では、外部専門家の協力の下、「前田野ランチ」や「かぼちゃのシフォンケーキ」等新たな製品を開発し、販売することができた。その他の製品も、外部専門家の指導の下クオリティアップを図り、昨年度までできなかった地域での販売会などで、好評を得た。
----------	--

P

D

達成状況	<p>1 コロナ禍前に近い状況の地域資源を活用した学習を積極的に設定したことで、児童生徒は多くの「感謝される体験」と「達成感」を味わうことができた。制限のある中でも「実現のための工夫」によって、様々な課題を解決していくことができた。</p> <p>2 今年度の研究をきっかけに、地域に展開する学習が更に広がりを見ることができた。単元を通して主体的に課題を解決する機会を十分に設定し、定期的に評価・改善を行ったことで、単元の質が向上し、児童生徒が主体的に課題を解決する力が育った。</p> <p>2 作業学習製品の全体的なクオリティアップと新製品の開発が計画的に行われた。また、製品の販売を通して生徒たちの自信と自己有用感を高めることができた。アンテナショップでの売れ行きも好調で、学校に問い合わせの連絡も寄せられている。</p>	D
-------------	--	----------

自己評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、99%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。また、93.9%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 </td> </tr> </table>	(評価)	(根拠)	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、99%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。また、93.9%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 	C
(評価)	(根拠)					
A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価において、「地域と共に育ち、地域に感謝される学校づくりができたか」の設問に対し、99%の職員が「よかった」「まずまずよかった」と回答した。また、93.9%の保護者が「はい」「どちらかといえばはい」と回答した。 					

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(評価)</td> <td style="text-align: center;">(意見)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営が県北地域の支援学校中心校としての歴史の重みを感じる。 地域イベントへの参加、地域住民との交流の機会を通して、社会参加に向けた仕掛けがなされている。 生活に密着した学習、地域を素材とした学習等に取り組み、将来の進路の実現を目指した職業教育（キャリア教育）を実践している。 </td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営が県北地域の支援学校中心校としての歴史の重みを感じる。 地域イベントへの参加、地域住民との交流の機会を通して、社会参加に向けた仕掛けがなされている。 生活に密着した学習、地域を素材とした学習等に取り組み、将来の進路の実現を目指した職業教育（キャリア教育）を実践している。 	C
(評価)	(意見)					
A	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営が県北地域の支援学校中心校としての歴史の重みを感じる。 地域イベントへの参加、地域住民との交流の機会を通して、社会参加に向けた仕掛けがなされている。 生活に密着した学習、地域を素材とした学習等に取り組み、将来の進路の実現を目指した職業教育（キャリア教育）を実践している。 					

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 新校舎の機能を活かし、6次産業化や作業学習製品の品質向上、地域交流室を起点とした地域コミュニティとの交流、寄宿舎の自立生活体験エリアの活用などを、積極的に推進していく。 児童生徒が地域住民に感謝される学校づくりのため、地域社会が学校に何を求めているかを把握しながら学習活動を計画・実践していく。 	A
------------------------------	--	----------